

寺報の発刊にあたり

浄慶寺住職 大塚 展彦

このたび、浄慶寺の寺報が門徒会の編集により発刊される事となりました。北は北海道から南は沖縄まで、全国に京都東本願寺を本山とする真宗大谷派寺院は、7,000か寺ほどあります。それらの多くでは、年間行事などのお知らせをはじめ、よりご門徒に寺への親しみを持っていただくよう寺報が編集発行されています。

浄慶寺では、2017年5月12日～14日に開催された、東本願寺での筑前西組真宗入門教室に参加していただいた中村皓二さん・塩川大一さんが中心となり、同じ西組の寺院の門徒会の方々との語り合いの中で、発刊に向けて準備を進めて下さいました。

各国の保護主義的な政策のもと世界中で多くの人々が困難な生活を強いられています。また、経済格差が進む我が国においては、人生の幸福の基準を考える要素としての宗教的ライフスタイルが見失われて久しく、寺院の多くが廃寺となっています。

このような時代社会の状況であるからこそ、寺報は寺とご門徒の架け橋として大切なものとなると思います。

このたびの門徒会の皆様の発願を機縁として、寺とご門徒の関係性がより親しくなることを願いとして浄慶寺寺報発刊のご挨拶とさせていただきます。



帰敬式に参加して

総代 中村 皓二

五月十二日から十四日まで筑前西組の皆さんと京都の本山研修(真宗入門教室・上山研修)に参加致しました。当寺の大塚住職に教導として皆さんの面倒を見て頂きました。

私の実家は浄慶寺に近い伊崎です。

お寺にお世話になった記録が『文化三年』となって居ますので、今から二百十年以上前からの御付き合いになると思います。

研修初日 午前十一時より同朋会館にて結成式を行い、その後両堂(阿弥陀堂・御影堂)参拝し、同朋会館講堂にて他方から研修に来られた方々と夕事勤行をして最後に感話をとの事で一番に指名を受けて、つたない話をさせて頂きました。二日目・三日目と壮大な建物の中で朝早く聞く阿弥陀経や正信偈の読経の速さに驚き、日頃の生活との違和感が強く感じられました。最後に仏弟子となる為に御影堂にて帰敬式を受けました。

その時、法名を頂きます。法名は住職と相談をして自分の名前の一文字を取り、**釋 照 皓**(しゃくしょうこう)と決めました。

仏弟子と成りましたと大声で言うほどの決意は御座いませんが、これからは法名の**照**の字に習い、皆様の足元を照らす懐中電灯の役目になれたら良いなと思って居ます。

皆様の心の拠り所となる浄慶寺になるように、今後も務めて参りたいと思います。皆様のご協力を、お願い申し上げます。

